

Title	International symposium "Evolution, development and education of logic and sensibility" (3月7-8日 三田キャンパス北館ホール)
Sub Title	
Author	藤澤, 啓子(Fujisawa, Keiko K.)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.12, (2010. 6) ,p.2- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	国際シンポジウム
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000012-0020

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2010年3月7日から8日にかけて、GCOE国際シンポジウム“Evolution, Development and Education of Logic and Sensibility”が三田キャンパスにて開催されました。

一日目の午前中は、動物行動・比較認知の分野に関する研究発表がありました。Gavin Hunt博士(オークランド大学)は、ニュージーランドに生息するカラスの一種を対象に、自然状況での道具使用を研究されています。発表では、興味深い映像の紹介とともに、道具の地理的変異や獲得のプロセスに関するデータが示されていました。Hans-Joachim Bischof博士(ビーレフェルト大学)の発表では、鳥の社会関係とその神経生物学的基盤に関するデータが示され、論理と感性への言及がなされていました。

一日目の午後は、乳幼児の脳画像研究に関する研究発表がありました。皆川泰代博士(遺伝と発達班)は、定型発達児の母語獲得における「論理」について、最新の脳画像研究のデータから新たな理論モデルを提唱されました。Joseph McCleery博士(バーミンガム大学)は、自閉症児とそのきょうだいの脳画像研究の最新データを示し、自閉症児の社会的機能について論じられました。北澤茂博士(順天堂大学)は、自閉症児へのエビデンス及び理論に基づいた介入について映像を交えて紹介され、自閉症児の適応的発達支援について考察されました。

二日目は、「教育」を進化的に考察することを目的としたシンポジウムでした。Alex Thornton博士(ケンブリッジ大学)から、共同繁殖するミーアキャットにおける教示行動をもとに、動物における教示行動の進化的基盤とヒトにおける教育との相違点に関する発表がありました。友永雅己博士(京都大学霊長類研究所)は、チンパンジーにおける社会的学習と心の理論に関する認知能力の研究史を振り返り、チンパンジーには教示行動がないとする知見をもとにしたうえで今後の研究の方向性を論じられました。John Sweller博士(ニューサウスウェールズ大学)は、生物進化とヒトの認知に関する5原則について紹介し、教育を進化的に考察する試みの基盤理論について考察されました。Sidney Strauss博士(テルアビブ大学)は、ヒトの教示行動と動物の教示行動の差異性について、「教育」の心理学的定義と進化論的定義に触れつつ論じられました。長谷川眞理子博士(総合研究大学院大学)は、ヒトとチンパンジーの比較をもとに、生活史理論に根差した社会的認知能力の考察をされました。人類史の視点を取り入れた学際的なアプローチが教育を考えるうえで重要であることが明確に示されていました。赤木和重博士(三重大学)からは、ヒトの教示行動の発達について、自閉症児と定型発達児を比較したデータが示され、ヒトにおいて教示行動が成立・発達する条件について考察する発表がありました。玉田圭作氏(慶應義塾大学)

は、上記6人の発表内容とは視点を変え、日本が世界に誇るマンガについて発表されました。マンガから「学ぶ」ことができるのか、マンガを「教育」に用いることができるのか等、マンガと教育の関係を科学的に研究していく可能性について論じられました。

各発表者の研究のバックグラウンドは行動生態学から心理学まで幅広いようですが、どの研究者も自らを「教育学者」と名乗ることなく、「教育」についてディスカッションが練り広げられたことが印象的でした。日ごろ口にされる「教育」と、シンポジウムで語られた「教育」との間にはかなりの距離感を私は感じました。教育学者、あるいは教育学を研究する方が、このシンポジウムに参加されていたなら、どのように考えられたか伺ってみたいと思いました。また、「教示」と「教育」、「Teaching」と「Education」の違いといったように、丁寧に言葉の定義をしていくこと、またそのための議論が重ねられることによって、私が感じた距離感も変化していくのだろうかなどと考えました。

今回のシンポジウムは、両日ともに、実に多岐にわたる研究分野の発表が、論理と感性の「進化・発達・教育」というキーワードを元に融合されたシンポジウムでした。このような学際的なシンポジウムは、シニアの研究者だけではなく、若手研究者・院生にとっても刺激的な経験となります。今後のGCOE国際シンポジウムを楽しみにしたいと思います。(藤澤啓子)

Global COE International Symposium “Evolution, Development and Education of Logic and Sensibility” was held on 7-8th March, 2010. There were 15 presentations which covered various research areas; animal behavior, comparative and cognitive psychology, brain imaging, developmental disorders, behavioral ecology, educational psychology and so on. This symposium well united those presentations and promoted active discussion. The interdisciplinary symposium like this would be stimulating and exciting for young researchers and graduate students as well as senior researchers, and provide them with new ideas for their own research.



1 ページ目の英訳 **Between Logic and Sensibility**

"Logic and sensibility", the fascinating theme of the Keio GCOE program reminds me of Pascal's famous distinction between the spirit of geometry and the spirit of fineness in his *Pensées*. Through the explication of the nature of mathematical proof, Pascal shows that human activities are

made possible by the cooperation of these two spirits. In this sense we humans are situated in a zone which exists between logic and sensibility. I expect that CARLS would achieve great success in the exploration of such a zone by the cultivation of young researchers with both spirits.